

ゆのしらせ

6月4日(土) 菖蒲湯を実施します

令和4年6月4日(土)は加賀片山津温泉総湯にて「菖蒲湯(しょうぶゆ)」が実施されます。開催当日は「森の湯」「湯の湯」両浴場とも菖蒲湯での用意となります。

一年の無病息災を祈願して毎年実施される「菖蒲湯」です。コロナ禍も3年目に突入し、何かと息苦しい毎日をお過ごしの方も、一年の健康を祈願しながらの入浴をお楽しみください。

発行・企画
加賀片山津温泉総湯公園

5・8・11・2月
(発行月下旬発行)

本紙に関するお問い合わせは
加賀片山津温泉総湯公園
TEL 0761-74-0550

ホームページ
<https://sou-yu.net>



菖蒲湯の由来は？

加賀温泉郷各地では、旧暦の「端午の節句」にあたる6月上旬に「菖蒲湯祭」が行われています。

特に山代温泉で行われる「菖蒲湯まつり」が最も有名で全国より観光客が集まり盛大に開催されます。

祭りの由来は密教の拠点・薬王院温泉寺に集まった修験者(しゅげんじゃ)に起因するといわれている。修験者たちは「厄」を払うため菖蒲を詰めたいを引回し、俵から破れ出た菖蒲を温泉に投げ込み、菖蒲の香りや薬性の湯に浴することで邪気を払ったのが菖蒲湯に始まりといわれている。

現在でも加賀温泉郷各地で菖蒲湯の風習は親しまれており、毎年6月上旬には、一年の無病息災、厄除けを祈願して菖蒲を浮かべた入浴が行われています。



片山津温泉のシンボル 柴山湯(しばやまがた)

片山津温泉のシンボルである柴山湯。当施設「湯の湯」では眼前に柴山湯の雄大な景色が広がります。景観のみならず、古くから我々の生活にも農業等に密接に関係しています。元来は現在の約3倍の非常に大きな潟湖であったそうです。

ご存知ですか？片山津温泉の成分

しょっぱい温泉

片山津温泉の泉質は「ナトリウム・カルシウム塩化物泉」と表示されるものです。一般的には「塩湯」ともいわれ、非常に塩辛い塩味の温泉です。また、片山津温泉の場合は塩味の他に「苦味」も含まれていることが特徴的で、海水を思わせるような塩味と苦味を持つ非常に特徴的な温泉成分を含む泉質です。「塩化物泉」は別名「熱の湯」ともいわれ、風呂から上がった後もじわじわと熱を感じ、湯冷めしにくいといわれています。

「高張性」の温泉です

温泉の成分を表す際に「低張性」「等張性」「高張性」という用語を使用します。これは人体の濃度と温泉の濃度を比べた際に、人体よりも濃度の薄い温泉が「低張性」、同等程度が「等張性」、人体より温泉成分が濃いものを「高張性」と表現しています。片山津温泉の場合は「高張性」の温泉で、人体よりも温泉の方が濃度が高いこととなります。「高張性」の温泉の場合、浸透圧の関係上、入浴の際には人体から水分が抜けていき、温泉成分が浸透しやすいという特徴があります。温泉成分の恩恵を得やすい反面、脱水のおそれがありますので過度の長風呂にはご注意ください。

←温泉分析所

各浴場の脱衣所にも表記してあります



片山津名物の毎日上がる夏の花火継続のための支援を募っています

現在の観光業界を取り巻く危機的な状況の中、片山津温泉の夏の風物詩である毎夜上がる納涼花火が存続の危機に瀕しています。今年度の毎夜の納涼花火を絶やさないため納涼花火実行委員会ではクラウドファンディングを使用した支援を募っています。



長風呂・湯あたりには ご注意ください

片山津温泉総湯は、成分や湯温の関係により、湯あたりを起しやすいお風呂です。体調とご相談いただき長風呂には十分お気を付けいただき、ご利用ください。特に夏場は発汗等により体内の水分が失われがちです。長風呂による脱水症状のリスクが増加します。当総湯ご利用の際は水分補給にもご留意いただいたうえでご利用ください。

次回の休館日は

7月21日(木)を
予定しております

機器類メンテナンス、洗浄等のため休館日とさせていただきます。ご了承ください。



↑片山津温泉配湯所
ここから各施設に温泉が運ばれます